

現場力の向上



東京消防庁 消防総監 清水 洋文

昨年から急速に広まった新型コロナウイルス感染症の猛威により、100年に一度と言われる未曾有の危機に直面していますが、ワクチン接種が本格的に始まり、ウイルスとの闘いは正念場を迎えています。この間、社会では様々な分野・場面においてパラダイムシフトが起こり、テレワークの普及など、私たちの暮らしや働き方に大きな変化をもたらされましたが、それと同時に、デジタル化の遅れなど、日本社会が抱える構造的な課題についても浮き彫りになりました。

そのため当庁では、コロナ禍に対応した消防行政推進の一方策として、ゲームソフトの「あつまれどうぶつの森」を活用した防災情報の発信などにいち早く取り組んできましたが、今年度は「デジタルトランスフォーメーション（DX）をはじめとした構造改革の推進と消防行政の質の向上」を重点施策の一つに掲げ、電子申請システムの開発やデジタル防災教育教材の制作のほか、リモートワークやeラーニング環境の整備などに取り組み、「新しい日常」を踏まえた消防行政を着実に推進していきます。

また、新型コロナへの対応とあわせ、消防総監として特に注力している取組が「現場力の向上」です。当庁では、大量退職期の終了や定年引上げなどにより、今後、職員の退職や採用、昇任等、人事異動規模の縮小が予測され、人事の固定化による職員のモチベーションへの影響が懸念されています。

一方で、災害対応はもとより、防火防災訓練や建物の立入検査など、都民と直接接するのは常に現場の第一線の職員です。その現場の職員の能力向上なくして組織の発展は望めません。

そのため、職員教育をはじめ、人事制度や福利厚生などの充実により、職員個々の能力伸長やモチベーションアップに努めるとともに、日々の業務や訓練等を通じてチーム力を高めることにより、現場力の向上につながるよう取り組んでいきたいと考えています。

加えて、職員の職務意欲向上を図る上では、管理職員が率先して風通しの良い職場の雰囲気醸成することが極めて重要です。アメリカのグーグル社が、チーム力の向上のためには「心理的安全性」を高める必要があると発表して以来、「心理的安全性」という言葉が注目を集めています。この意味は、「職場で誰に何を言っても拒絶されることがなく心配のない状態」のことですが、この「心理的安全性」が職場に浸透すると、職員間のコミュニケーションが円滑となり、チームとしての対応力が向上すると言われています。消防組織は階級社会です。そのために、時として階級が上位の者に意見を言いづらいことがあります。そのような職場の雰囲気や環境を変え、職員の積極性や主体性を引き出す「心理的安全性」のある環境作りに努めたいと考えています。

当庁は人が要の組織であり、それ故に職員の技能の向上は重要です。約18,600人の職員一人一人が個々の能力を向上させることができれば、その総和は大きな力となり、都民サービスの向上に繋がります。時代の過渡期を迎え、直面する課題は山積していますが、総務省消防庁をはじめ、全国消防長会や関係機関とも緊密に連携し、東京都が目指す「セーフシティ」の実現に努めてまいります。